

たちばなふみ市議 代表質問④ 浜岡原発不正 規制委員会審査の信頼性は 島根原発プルサーマル運転ゆるぎない

たちばなふみ市議は2月議会の代表質問で6項目質問しました。その内「浜岡原発で不正、原子力規制庁の審査に疑問」「島根原発のプルサーマルについて」を報告します。

中部電力が静岡県の浜岡原発で、基準地震動のデータを意図的に改ざんしていたことが発覚しました。不正が発覚したのは昨年2月、外部から規制委に情報提供があったからです。その際すでに規制庁は基準地震動を認めてしまっ

て、国による厳格な審査、最も厳しい審査と呼び、これに通ったということを通前了解等の判断材料としてきた」と指摘。「立地自治体として規制委員会に対し審査のあり方そのものに疑問を呈し、規制委員会の審査を根拠とした事前了解を撤回し、原発をストップさせることが求められている」と質しました。



上定昭仁市長は「原子力規制委員会は中部電力以外の事業者で類似した不正の兆候はないとしている。事前了解を撤回する必要性は感じていない」と答えました。

また、市議会原発特別委員会において中国電力から島根原発2号機におけるプルサーマル発電について、2029年度開始をめざすなどの説明がありました。

村で建設中の使用済み核燃料再処理工場は27回も延期されており完成は見通せない。中間貯蔵も最終処分も見通せない。結局使用済み核燃料をどうするかという問題は解決できていない。原発をストップし核のゴミを産まないことが、住民の命と財産に責任を負う立地自治体のなすべき態度ではないか」と質しました。

上定市長は「懸念事項も踏まえた上で事前了解しており、今後も継続して注視していくべき事項と考えている。火災やヒューマンエラーの再発防止、市民の理解醸成や積極的な情報開示について改めて申入れを行った」と答えました。

沖縄と連帯する島根の会が総会 高野孝治弁護士が講演

4月11日、島根県民会館で「沖縄と連帯する島根の会」が設立10周年記念講演と総会を開催。代表世話人の高野孝治弁護士が「あなた 戦争するの？ひた走る抑止力という集団妄想」と題して講演、70



講演する高野孝治弁護士

名が参加しました。

講演で高野氏は「日本は独立しているか」と切り出し、空港港湾がアメリカの自由にできる現状を説明。アメリカは日本を盾に中国封じ込め政策を進め、それに応えて日本は沖縄を始め日本全土を軍事基地化し、ミサイル配備や軍事施設の地下化など巨額な軍費を投入していると告発。

また、強い軍備を持てば平和になる、戦争の準備をすれば平和が来るなどは妄想で、自己矛盾な考えだと軍備拡張での抑止論を厳しく批判しました。

最後に、戦争を止めさせる

には、戦争の悲惨さを訴えていくこと、戦争参加を拒否すること、憲法がなぜできたのか、どんな役割を果たしてきたのか、憲法の指し示す道をたの、声を上げ、運動を広げていこうと結びました。

会場からは「憲法が変えられるのでは」「徴兵制が布かれるのでは」と質問が相次ぎ、高野氏は「心配はあるが決められるのはあなただ」と行動を呼びかけ、会場からは「国民の運動も広がっている、いつまでもこのままではない。今できることで頑張ること」と発言があり参加者の間で署名活動について話し合われました。

総会では運動方針が決められ高野孝治代表、小林佳子事務局長など次期世話人が承認されました。

樋野伸一市議 一般質問③ 島根原発は安全軽視 廃炉の決断を

樋野伸一市議は2月議会で3項目の質問をしました。その内「島根原発の問題について」報告します。

中部電力浜岡原発の審査で基準地震動の評価を小さく見せる不正行為を行った重大な



行為から「性善説」はもはや通用しない事が判明しました。中国電力は2006年水力発電施設でのデータ改ざん、2010年には島根原発定期点検で大規模な不正が発覚し原発の信頼性が大きく揺らぎました。中国電力の安全軽視の姿勢が大問題です。

樋野市議は①今後中国電力が市民の命と暮らしを脅かす不正があった場合いかなる対応をとるか②1月6日島根県東部地震で松江市は震度5強と強い地震が起こったが、もし島根原発直下の宍道断層で震度6を超える地震が起れば

大きな被害が予想される。市民の命を守るために廃炉の決断をとりました。

能海防之防災部長は①について浜岡原発と同様な不正が無い事を確認し原子力規制委員会において不正が起こりにくいプロセスを検討しているため状況を注視すると回答。

②については敷地近傍に位置する宍道断層の長さを39kmと評価した上で最新の科学的、技術的知見を踏まえ審査においては妥当であると評価を受けており直ちに安全機能が失われることは無いとの見解が示されているため問題はないと回答しました。